

酒米「夢ささら」の安定多収栽培法の確立

要約

「夢ささら」の安定生産を目指し、1株当たりの植付本数を変えて栽培を行い、収量性を検証した。その結果、1株当たり3～5本が収量及び収益が最も高かった。

○ 展示のねらい

令和3年産の酒米「夢ささら」は10haの作付けがあったが、収量は506kg/10a（目標収量：540kg/10a）と低収であった。そこで、地域における安定多収栽培法の確立を図ることを目的に展示ほを設置した。

表1 展示内容及び試験区概要

区名	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/坪)	肥料	N (kg/10a)			P ₂ O ₅ (kg/10a)	K ₂ O (kg/10a)
				速効性	LPSS100	合計		
試験区①	1～3	80	BBひとふりくん プレミアム4号	4.5	4.5	9.0	9.0	9.0
試験区②	6～8	80						
慣行区	3～5	80						

○ 主な成果

表2 収量・収量構成要素及び経営試算

区名	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	総粒数 (100粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	整粒比 (%)	心白率 (%)	タンパク質含有率 (%)
試験区①	547	295	91.2	265	85.6	27.2	70.9	39.3	8.3
試験区②	557	300	87.4	276	81.1	26.9	71.8	38.5	8.1
慣行区	576	298	85.6	285	78.1	27.5	69.0	40.8	8.5

区名	収入			支出 (円/10a)				所得 (円/10a)
	精玄米重 (kg/10a)	単価 (円/kg)	①生産物収入 (円/10a)	種苗費	肥料費	その他経費	②支出計	①-②
試験区①	547	260	142,304	2,858	21,704	52,852	77,414	64,891
試験区②	557	260	144,703	6,350	21,704	52,852	80,906	63,797
慣行区	576	260	149,730	4,445	21,704	52,852	79,001	70,729

- ・収量は、試験区①では547kg/10a（慣行区比95%）、試験区②では557kg/10a（慣行区比97%）となった。
- ・慣行区に比べ、試験区①と試験区②ともに収入が低くなり、10a当たりの所得は、試験区①では5,838円、試験区②では6,932円低くなった。

○ 今後の方向性

植付本数を、多く設定した区と少なく設定した区ともに、慣行区と比べて収量が減少した。今回の結果に加えて、植付本数が多いと使用する苗箱数の増加によって重労働化し、逆に少ないと移植時の欠株の発生が懸念されることから、管内における「夢ささら」の栽培では、植付本数を1株当たり3～5本を基準とするよう推進していく。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：大田原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315